

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

(い)生き生きと活動する子 (ち)地域の中で育つ子 (が)頑張りぬく子 (お)お互いを思いやる子

- 【い】進んで学び、問題解決に向け、最後までやり抜く子を育てます。(知)
- 【ち】地域社会のために自らができることを進んで実践する子を育てます。(公)
- 【が】心と体を鍛え、明るく楽しい生活のできる子を育てます。(体)
- 【お】友達を思いやり、気持ちのよい挨拶や言葉遣いのできる子を育てます。(徳)
- 【い】日本や外国の文化にふれ、夢を育て、実現しようと努力する子を育てます。(開)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

〈自分づくりに関する力〉
〈言語能力〉
〈心身たくましく生きる力〉

具体化した資質・能力

- ◎粘り強く取り組んだり、より深く知ろうと追究したりする力※
- ◎伝え合うことで自分の考えを深化させる力※
- ◎健康な生活を実践しようとする力※

(※高学年の姿。低中高学年ブロックごとに段階的に設定。)

中期取組目標

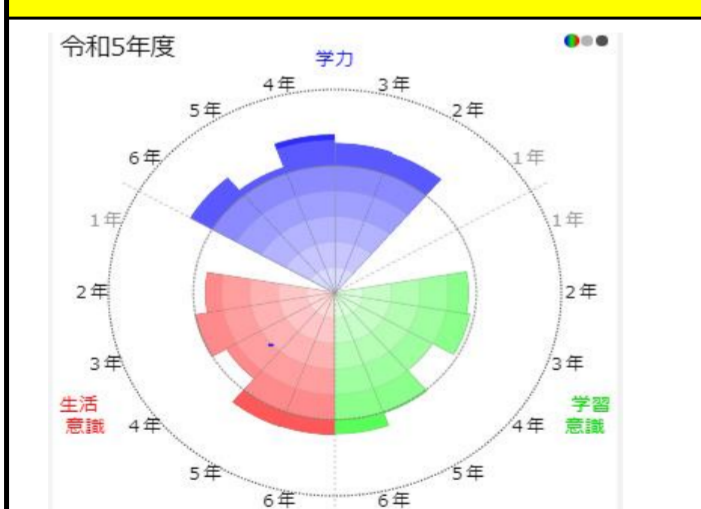
○子ども一人ひとりを大切にして、学習面でも生活面でも進んで問題解決できるよう、自ら判断し、自信をもって行動する子を育てます。

- ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現を大切にしながら学力を向上させます。
- ・一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。
- ・健康な心身をつくるための生活習慣の形成と災害時における防災リテラシーの育成に努めます。
- ・まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	○児童の実態を把握し、学ぶ楽しさが実感できるわかる授業づくりに向けて授業改善を行う。 ○育成を目指す資質・能力を明確にした授業研究等を行い、子どもが主体的に学習に取り組む授業を目指す。
担当	評価・学力向上・重点研究、教育課程

学力向上に関わる本校の状況



昨年度の市学力・学習状況調査の結果では、どの学年も市平均を超えていることから、基礎的な学力は身に付いていると言える。全学年で取り組んでいる朝学習の活用、スキル等を活用した反復学習、分かる授業を研究してきた成果であると言える。しかしながら、学習意識や生活意識は市平均を下回っている学年が多い。教師主導ではなく、児童が自ら主体的に学ぶ学習の展開や、問題解決型の学習、生活に帰着する学習の工夫が必要であると考えます。また、生活意識については過去のデータを見ると年々下がってきている。生活を整え、規範意識、正しい生活リズム、家庭学習への取り組みを家庭と連携して指導するなど、具体的に策を講じる必要がある。

これらのことから、昨年度同様、朝モジュールやスキルを活用した基礎・基本の定着を継続し、学習の中では基礎・基本を活用した生活に帰着する問題に取り組むなど、児童が主体的に問題解決していくような学習スタイルを工夫していく。また、ICT機器を活用し、個に応じた支援の充実や、児童自らが学び方を選択する個別最適化な学びの研究を進めていく。

今年度の目標

基礎基本の定着と学習意識の向上に重点を置き、教職員の指導力向上、家庭・地域・外部との連携を図り、児童が主体的に問題解決していく姿や表現力の育成を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>(全学年)○朝学習(モジュール等)の指導時間やスキルの有効活用により、基礎学力の向上を図る。ICT機器を効果的に使用し、児童自らが学び方を選択できる場面を設定する。学活を利用して生活意識を高める活動を取り入れる。(重点研)学習課題を自分たちで設定し、どんな情報やデータを収集すればよいのかを考え、実際にデータを収集できる場を設定する。</p> <p>(1年)○国語科や生活科等で、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちや言葉で表したりすることを大切にするとともに、伝え合う場面を位置付ける。</p> <p>(2年)○自分の考えを他者に伝える場面を多く設定したり、話題を提示したりする。 ○計算の仕組みを理解して、日常生活の中で数学的な考え方を取り入れて、活用する力をつけていくよう指導する。</p> <p>(3年)○話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心をとらえながら、話を聞くことができるよう指導する。</p> <p>(4年)○活用する力の向上を図るために、日常生活と結び付けた課題に取り組ませる。</p> <p>(5年)○主体的に課題解決学習を行い、自分の意見を表現する力の向上を図る。</p> <p>(6年)○児童に自らの課題設定をさせ、主体的に問題解決できる場を設定する。(個別級)○反復学習を通して、計算や漢字の基礎の定着を図る。</p>	<p>(全学年)○基礎・基本の定着を図りつつ、生活に帰着する問題に取り組む、ICT機器を効果的に使用し、児童自らが学び方を選択できる場面を設定する。学活を利用して生活意識を高める活動を取り入れる。(重点研)○収集したデータを、ICTも使いながら分析・整理し、それをもとに、まとめ、表現する場を設定する。</p> <p>(1年)○具体物を用いた活動を通して、数量関係を理解して計算する力をつけていく。 ○ひらがな、かたかなとともに、配当漢字が文中で正しく使えるよう指導する。</p> <p>(2年)○配当漢字や平仮名を正しい筆順で丁寧に書き、定着するよう指導する。 ○文章の場面の様子や、登場人物の様子をつかめるように指導する。</p> <p>(3年)○校内や地域の人たちと関わる機会を多く設定し、思いを伝え合うことで、自分の考えを広げることができるよう指導する。</p> <p>(4年)○根拠のある妥当な考えをもち、文章や言葉で表現できるようにする。</p> <p>(5年)○自他の良さを認め合い、思考を深め主体的に学び合う力の向上を図る。</p> <p>(6年)○教科横断的な視点で、多面的に様々な活動に主体的に取り組める場を設定する。(個別級)○適切なコミュニケーション手段を活用する場面を積極的に設け、基本的な生活習慣の向上と習慣化を図る。</p>

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	○道徳の時間の充実、他教科との総合化を図ることにより、児童一人ひとりの道徳的な判断力、心情、実践意欲を育てる。 ○だれもが安心して学校生活を送れるよう、教職員間で児童理解を深める。(道徳研修・人権研修の実施)
担当	豊かな心の育成

豊かな心に関わる本校の状況

○「みんなの広場」での異学年の交流において、高学年児童のリーダーシップの力を育成できた。

○生活科や総合的な学習の時間において、コロナ禍ではできなかった体験的な学習や人との交流の機会を多く持つことができ、児童が様々な見方・考え方に触れて視野を広げることができた。この体験的な学習を道徳教育と関連付けていくことについて、計画的に実施していくことが課題。

○ YPAアセスメントを複数回実施し、個々の成長や課題・学級風土について分析することで、自尊感情を高める支援の手立てを検討することができた。支援検討会の充実が課題。

○ 情報共有のツールとして「ほうこポスト」を設置し、タイムリーな児童理解に努めた。記録内容の充実が課題。

○ 特別支援教育に関して、通級指導教室と連携し、配慮が必要な児童について共有したり、教材やタブレットでの支援ツールなどを研修で学んだりすることで、個々の児童へのよりの確な支援・配慮を検討することができた。

○ 人権教育について、ユニセフ募金や人権週間の標語作りなどを通して、児童が自他を大切にすることについて気づき、学ぶことができた。「人権」について、児童の発達段階に応じた教材の提供や取り組みが課題。

今年度の目標

○豊かな体験との関連を図った道徳教育の充実を目指す。
○自尊感情を育て、自他共に大切にすることを育む。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>道徳教育を核とした年間指導計画の作成 「みんなの広場」における異学年児童交流の充実 YPAアセスメントを生かした自他を大切にできる学級風土の醸成 生活科や総合的な学習の時間における豊かな体験を通じた学習の実施 通級指導教室との情報交換・連携</p>	<p>道徳教育を核とした年間指導計画の作成・見直し 「みんなの広場」における異学年児童交流の充実 人権週間における子どもの自尊感情の育成・教職員の研修 YPAアセスメントを生かした自他を大切にできる学級風土の醸成 生活科や総合的な学習の時間における豊かな体験を通じた学習の実施 子どもの背景を基とした教職員の児童理解 通級指導教室との情報交換・連携</p>

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	○学校保健委員会(委員会活動)を中心に、児童が自らの健康に対して関心を高めるようにする。 ○年度初めから外遊びの推奨を促し、児童の運動機会確保を図る ○体育科の学習を中心に、自らの課題を理解し、運動を通して課題を解決できる指導の工夫を行う。
担当	健やかな体の育成・体育部・養護

健やかな体に関わる本校の状況

本校では、毎朝朝食を食べている児童が92%と高い数値を示している一方、睡眠時間が8時間未満が28%、6時間未満が5%と、睡眠をしっかりとれていない児童が多い。

身長は平均ほどで、体重は平均より下回っている。

給食では、ごはん・パンの残量が多く、炭水化物を必要量摂れていない児童が多い。おかずでは、緑の野菜の残量も多く、バランスの良い食事がとれているとは言いがたい。

体育や休み時間のケガが多く、保健室に行く児童が多い。自分の運動能力を理解したり、周りを見て行動したりする力を養う必要がある。

今年度の目標

体育科学習や食育等の学習活動を充実させ、基本的な生活習慣への関心を高めると共に、体力向上を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
<p>運動会 第一回学校保健委員会・・・本校児童の課題を踏まえた改善のための子ども主体の取り組み(安全・けがの防止)の充実 家庭科の学習－調理実習を通し、栄養バランスの良い食事を知る 休み時間の外遊びの推進 保健の学習－感染症の予防について学習 授業への学校栄養職員・養護教諭の参加</p>	<p>第二回学校保健委員会・・・本校児童の課題を踏まえた改善のための子ども主体の取り組み(安全・けがの防止)の充実 家庭科の学習－調理実習を通し、栄養バランスの良い食事を知る 休み時間の外遊びの推進 保健の学習－薬物や喫煙等の害についての学習 授業への学校栄養職員・養護教諭の参加 長縄集会を通して運動量の充実を図る 一校一実践(校庭利用を促進)を通して体力の向上を図る 給食集会を通し、残食を減らすような活動を行う</p>